



仏法領

ぶつぽうりょう

第96号

発行：真宗大谷派
 念信寺
 〒824-0202
 福岡県京都郡みやこ町
 犀川上高屋761
 ☎ 0930-42-0329
 Fax 0930-42-0502
 ホームページ
 nenshinji.org
 メールアドレス
 nenshin@pony.ocn.ne.jp



「たんぽぽ」

今回のテーマは

「人が生まれ育った環境」。

簡単に言うと

それによって、人はどう生き

どう苦勞し、生きていくのか。

ともて、難しい。(笑)

私は、道端に咲いている

たんぽぽを見て感じた。

たんぽぽと

人が生きるということとは

似ているのでは？

綿毛は、風に吹かれて

フワフワ

フワフワ

飛んでいく。

たどり着いた先が、綿毛の家になる。

根をはり、葉を広げ、春を待つ。

そして、キレイな花を咲かせ

綿毛を作って飛んでいく。

人の出会いも奇跡の連続で

愛する人に出会い、家庭を持ち、生きていく。

たんぽぽが、偶然庭先に

咲いているのと

同じくらい奇跡だ。

だから、この奇跡を楽しみたい。

精一杯楽しみたい。

一度きりの人生だから。

(写真・文 大迫光浩)

生い立ち・環境

生まれ育った環境を「恵まれた」生い立ちと

か、「不遇な」生い立ちと言うけれど、恵まれ

た恵まれていないは、誰が決めるのだろうか。

人の境遇は他人からはうかがい知れないも

のがある。例えば深刻なDV被害などを幼少期

に受けると、そのトラウマから解放される為

一生かけて苦闘する人もいる。私もこれまで生

まれ育ったお寺や家庭環境のなかで葛藤してき

たのだと思う。

人は生まれる場所を選べない。生まれた時代、

社会、家庭環境の影響を受けざるを得ない。最

初は自分がどういう時代や場所に生きているの

かさえわからず懸命に生きていく。次第に自分

の置かれた立場を自覚し歩み出す。

では最終のゴールは何処だろう。他者の死を

知ること、初めて自分の終り、死を知る。「こ

の世」のこと、お金、家族、友人、地位、名譽

も手放さねばならないことを知る。

未来の時間も無く、家族を失い、自立できな

くなったとき、多くの人が生きがいをなくして

しまう。けれど、それはチャンスでもある。こ

の宇宙、地球に生まれて生きることの本当の意

味は何だろう。

自分の欲の色眼鏡でなく、ほんとのことを知

りたくなった時、自分の生い立ちのプラスもマ

イナスも、また違う意味を持ってきてご縁でし

たと受けとめられるのかも知れない。

宇宙の暗闇の中にいのちまるごとのあなた

は、自分の生い立ちや時代・社会をどのように

受けとめて生きようとしていますか？

(住職)

合同帰敬式を 受けました！

去る四月三十日、京都組では初めての試みで「同朋のつどい」開催・同日に行橋市の浄喜寺に於いて合同帰敬式が執り行われました。念信寺では三人の方が帰敬式を受けられました。

犀川上高屋の ST さん、SY さん、犀川下伊良原の OH さんです。三人の方に受式後の感想を伺いました。

①〈帰敬式を受けたきっかけ・動機は〉
ご院家さんに勧められて。兄弟がすでに受式しており、話を聴いていたので機会があればと思っていた、今回いい機会だったので。親戚の伯母さんから前から話を聴いていた。最近、妻とくし供養のきっかけになればと思った。

②〈帰敬式そのものは〉
カミノリは自分では全く感じなかったが、前の人を見ていて当てるのだなと思った。式そのものは厳粛な気持ちにはなりましたが、肩をポンと叩かれても何も感じなかった。結構、厳粛な気持ちで緊張していたが、ポンと肩を叩かれてホッと安心した。仏さまに気持ちだけ近づいたかなと思った。

③〈受式後の変化は〉
食事時、食前のことばをハッキリ



京都組同朋のつどい・合同帰敬式 2024.4.30 於 浄喜寺

リ云うようになった。お仏飯やお花を、ご仏前に供える際、以前は「先祖に上げていた気持ちだったが、今はもっと大きな仏さま阿弥陀様を思っ上げていた気がする。新たなスタートを切った気がする。仏さまにお参りする回数が多くなった。お花の水を替えたりするとき、心を込めてするように変わった。亡くなった妻を思い出して、台所に立つても涙が出ていたが、落ち着いた気持ちになれた。亡き妻が安心して成仏してくれば、気持ちが届けられたらと思う。

④〈その他〉
合同帰敬式では、二十数年ぶりに昔の同僚や知り合い数人に遇えて大変懐かしかった。親戚の人もいて嬉しかった。近くでの受式は知人が多くて寂しくないと思う。生前に自分の法名を知ることが出来て良かった。帰敬式については、身近な人と一緒に受式したいので、法事の時など折りにふれて院家さんに話して貰えるとう有難い。受式して良かった(全員)。

〈お話しを伺った感想〉
皆さん、受式への強い動機はなくても、受式後、劇的な変化はなくても、受式して良かったと気持ち安定し、ささやかながら前向きな方向へ変化していることが伺えました。

今回、京都組で合同帰敬式を受けた人は、総勢六十三名でした。念信寺は比較的少数でしたが、受式された方の意見も踏まえて考えさせられたのは、お寺として帰敬式について常日頃から丁寧にご門徒への説明をすべきであった、せつかくの機会に残念だったということでした。坊主としても深く反省し、今後は、もつときめ細やかな対応を心掛けたいと思っています。



(坊主 村上 寿子)

人生を振り返って

YA (北九州市小倉北区)



私の人生が残り少なくなってきた今、私の人生を振り返って見た。私の人生に於いて父の存在は大きなものであったと思う。私が二十七歳の時に他界した父であり、一緒に過ごした年月は短いものであった。海軍の技術将校であった父は非常に厳格な人であり、努力家で勉強にたけ、仕事一筋の人であったが、家族には優しい人であった。

兄が早逝していた為、父は私が長男で、跡取りと思っていた。その為、進むべき道、考え方等についてはかなり厳格になされた。例えば、小学校に入学する前に、「お前は明日から学生であるから、髪は切り、坊主にして身なりをきちんとしなければならぬ」と言われた。また、父は私の進路についても、独特の考え方をもち、「人は適材適所で能力を一番発揮できる。お前は必ず抜けた能力ではないので、大きな機械の一部品になるより、小さな機械の一部品で活躍する方が良い。お前の力が発揮できる」学校の進路については、「お前は俊敏な能力ではないので機械系に進め、化学系に比べ命を落とす可能性が低い」。父は化学出身であった。その他多くのエピソードがある。私のこれまでの人生を振り返ってみると、私は父の言った方向に進み、私には良い一生であったと思っている。前述した様に父は努力家であり、勉強

にたけており、最後まで父には勝てなかったと思う。私の人生は父に導かれたと思っっている。

お参りの日々

村上 宣 (念信寺衆徒)

今年も梅雨に入り、昼間でも薄暗い霽囲気の立ち込める時期となりました。

5月28日で北海道のお寺から帰り、念信寺で働いていく事となりました。もうすでにお参りに向かわせていただいた御宅もあるかと思ひます。

今回はテーマが「生い立ち」という事で、幾つか思うところがありますが、あまりそれに縛られたくないと思っっているところがあります。



学生時代と合わせ7年程、一人暮らしをした感想としては、「人は案外、背景が何もなくても生きていける」という事で、それが今の時代の若い人が「隣人と話さない」ということの理由なのかと思ひます。しかし、それによって人と知り合えない、疎外感や寂しさを感じるのも事実で、「人を知ること」の大切さとはそこなのかと思ひます。

「生い立ち」という事を基本の下地に人との関係が築いていけると同時に、それに縛られて自由にはなれず、そこから離れると自由の代わりに、疎外感や寂しさに苛まれてしまう。人は結局、一人では物理的にも精神的にも生きていけないというのが、よく分かる7年間でした。外に出て暮らすのは面倒なことも多くありましたが、知れたことも多く、楽しいものでした。今後、またお世話になります、どうぞよろしくお願ひします。

退任ご挨拶

法務員 柏木主税



覚えるより忘れることが多くなった晩年に... 念信寺本堂の屋根を設計事務所が...

お寺様の発展と門徒様の御多幸、ご活躍を念じます。



20年近くどんな日も怠らず、お参りくださいました。お別れのためにわざわざご挨拶に来られた門徒さんもおられました。

本堂大屋根修復 会議状況

- 第9回検討委員会 (4月7日)
●第10回検討委員会 (6月16日)
各地区での説明会を開催することについての協議
各地区説明会報告と今後について



第9回



第10回

念信寺本堂屋根の現状と検討委員会経緯

検討委員会経緯

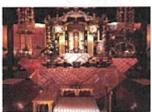
念信寺本堂は大正元年(1912)に落成し百年以上を経ており、昭和49年(1974)の屋根葺き替え工事からも50年が経過しております。そのため各所に傷みや歪みが生じ、正面柱の傾き、屋根の軒先部の痛み、雨漏りもするようになり、令和元年(2019)に建物調査を設計事務所依頼しました。その結果、早急に修理の必要があることが判明し、皆様にご報告申し上げました。折に触れては修理の必要があることをお伝えして参りましたが、令和4年(2022)6月に新納骨堂が完成しましたので、年末の世話人会議で本堂屋根について相談させていただきました。その結果、検討の場を設け、木井、犀川、上高屋の各ブロックより検討委員を選出いただき、協議して参りました。

検討委員会の結論

- 業者の見積額 1億2,600万円
御門徒一戸当り割当金の算出 250戸で算出
●目標額 1億5,000万円
(差額2,400万円の内訳、事務、仏具移設、記念品、法要、借入利息等)
内訳 寺 2,500万円
門徒 1億2,500万円
(御門徒一戸当り割当金は50万円)

割当金の納入方法(5年)

- 一括納入(納入予定を)
分割納入(納入計画書作成)
●業者への支払い(3回)
※着工金、中間金、完工金



分けて表のように地区説明会を開催いたしました。ご意見をいただいた結果、実際に寄付が集まるか、アンケートを実施することになりました。アンケート用紙を配布予定です。素意をお汲み取りくださいますようお願い致します。

2024年実施状況

Table with 5 columns: 年月日, ブロック, 開催場所, 門徒数概算, 出席者. Rows include dates from 4/14 to 6/2 and locations like 伊良原地区, 木井谷, 上高屋, etc.

※門徒数は概算で、以前より減少。カウントされた戸数は減っている。施設に入ったり、子どもや継承予定者の住所が違って、誰が継承するのかわかりにくいケースが多くなっている。家の継承が難しくなっている。また県外やご縁が遠くなっている方には今回は、説明会のはがき等の案内をしなかった。

ご意見⇒【検討委員会回答】

- どの程度傷んでいるのか。なぜ今か。⇒【屋根垂木部分の腐食をきっかけに2019年設計事務所調査依頼、結果を報告。納骨堂建て替え後、2022年より本格的に取り組んできました。】
●個人的意見として、それだけの負担はできない。⇒【できる限りお願いします。】
●相見積もりはしたのか。⇒【3社申込み、2社提出、1社は2028年まで取り組めない。】
●目標額1億5千万でなく、工事見積額の1億2千6百万でいいのでないか。⇒【事務費など余裕をみています。後から追加してほしい。】
●余った場合は戻してほしい。⇒【状況に応じて戻します。】
●寄付の一戸当り50万円は決まっているのか、もう少しつめてほしい。⇒【業者と折衝してありますが、検討委員会で検討してきました。】
●大口はないのか。⇒【念信寺の場合、残念な最終的にどこで業者と契約するのか、ゴーサインは? ⇒【世話人会議で決定します。】
●納入計画、後の納入方法は? ⇒【またお知らせします。】
●支払いなど不安を和らげる方法は? ⇒【最大5年の分割納入も考えています。】
●払えない場合どうするか、はっきり言って支払いきつい。⇒【誠に心苦しいのですが、極力お願いします。】
●仕様を落としての見積はないのか。⇒【経費と耐久性を含めて寺社建築としての総合的バランスを考慮しています。】
●集まったお金が不足した場合はどうするか。⇒【全員に再びお願いすることはありません。一丸となって取り組みます。】
●門徒へのお願いと計画の見通しを持った方がいいのでないか。⇒【世話人会議後にアンケートを行い、実施計画を考えます。】
●立派なものを建ててください。⇒【有難うございます。】

春彼岸法要 3月23、24日午後 講師 北嶋文雄先生(筑前町光蓮寺住職)



皆作・永代経法要のご案内

今年は例年より梅雨入り遅いようです。皆さまいかがお過ごしですか？

離をとって座れるように、地区ごとに振り分けしておりますので、できれば表の左下の日にお参りくださるよう願致します。当日のご都合が悪い場合はいずれの日でも構いません。

※マスクの着用をお願いします。お茶は各自ご持参ください。

合掌

記

一、日時 六月二十九日(土)、三十日(日)の二日間

一、講師 舟川 智也 先生

行橋市 両徳寺住職



期日	法座 昼席	地区ごとのお参り予定お願
6月29日 (土)	午後1時30分	伊良原・横瀬・上木井・下木井・犬丸・内垣・下本庄・松坂・他地区※
30日 (日)	午後1時30分	上本庄・鏡畑・上高屋・他地区※

※他地区とは、豊津・築上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

コロナ対策として

- マスクの着用をお願いします。●お茶は各自ご持参ください。
- 法座は2日間午後のみです。
- 出来れば地区指定の日にお参りください。
- 本堂の椅子は余裕をもって配置し、換気に努めます。
- 体調の不安がある場合は、遠慮ください。

法座予定

二〇二四年

●秋彼岸法要

九月二十八(土)・二十九(日)日
講師 瓜生 崇師
(滋賀・東近江市)

●ご正忌・報恩講

十一月二十一〜二十三日
講師 未定

二〇二五年

●春彼岸法要

三月二十九(土)・三十(日)日
講師 北嶋 文雄 師
(筑前町 光蓮寺住職)

お寺の催し・活動



3/20 世話人会議



4/5 淨真寺古桜



6/14 女性門徒の会事前・善徳寺



5/3 新森家上げ仏事



6/10 今禰家上げ仏事



5/6 緒方家上げ仏事



6/6 執行部・門徒会懇



4/2 女性門徒の会役員会・妙覚寺



4/8 今居氏宗議会報告



4/21 上高屋地区



4/27 下高屋・本庄・松坂・鏡畑



6/2 犀川・行橋・田川・北九州他



4/14 伊良原地区



4/20 横瀬・木井・内垣・犬丸

本堂屋根・小屋組修復

地区別説明会

あとがき

じつは、大迫さんの巻頭の言葉にはもつと前置きがありました。

最近の任職のテーマは難しい(笑) 仏教と哲学、道を極めるといふことはこういうことだと、わたしなりに理解している。

だいぶ持ち上げすぎだけど、今回は皆さん寄せてくれた文章がとくに良かったと思う。というか、その人となりの人生が出ていて、胸にきました。「たんぽぽ」は重くならず、いいですね。

本堂屋根の話合いが具体的に動き出しました。みなさんにお願するのは誠に心苦しいですが、私も身を切る覚悟です。たまたまご縁あってこの身を受けて生きる場所をいただいています。できることをさせてもらおうと考えています。

本堂裏の山からは鶯や小鳥のさえずりが聞こえてきます。現実には深いなあと田舎暮らしを満喫しています。

